

質問事項		記述式回答
<p>来年秋を見据えて、現在の景気の基調</p>		
1	<p>9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。</p> <p>① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む) ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価) ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向</p>	<p>消費と実質賃金は、消費税のために一時的に下落しても、雇用が回復しつつあるので、やがて増加に向かうと期待される。他の世代と異なり、30歳代の消費が実収入より下落しているのは、お金と時間がないために外税と内税の併用による混乱の影響を受けやすいためとも考えられる。今後、価格機能を回復するために消費税を内税に統一すべきである。</p> <p>物価については、大胆な金融緩和を続けて期待に働きかけ、2%のインフレを達成することが重要である。</p>
<p>地方創生・地域活性化</p>		
2	<p>地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。</p>	<p>地域間の貿易はいわゆる重力の法則に従う。すなわち地域Aと地域Bの間の貿易量は、Aの所得とBの所得の増加関数で、AB間の距離の減少関数となる傾向がある。貿易は社会的分業を通じて生産性を高める。実践としては地方の中心都市からはじめて、地方に多様な機能を持たせ、地域間の貿易と活力を高める必要がある。その際、地方はそれぞれ特色があるので、地方の独自性と自主性を尊重しなくてはならない。</p>
<p>その他</p>		
3	<p>10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。</p>	<p>2%のインフレを達成するために拡張的な金融をおこなえば、多少の円安になるのは当然である。中間財、企業内貿易のシェアが高まっている現在、円安を輸出増につなげるためには、TPPや規制緩和によって、日本や海外の企業の国内立地を促進する必要がある。</p>